

資料2 「レベルI」臨床助産実践能力評価表

部署名：( ) 申請者氏名( )		合否判定								
一次評価者氏名( ) 看護師長( )										
到達目標										
1. 指示・手順・ガイドに従い、安全確実に助産ケアができる										
評価										
自己評価					一次評価者					
判定					判定					
A	B	C	D		A	B	C	D		
倫理的感応力										
1. ケアリングの意味・主要な概念や理論が理解できる										
A	B	C	D		A	B	C	D		
2. ケアリングの重要性が理解できる										
A	B	C	D		A	B	C	D		
3. ケアリングの主要な概念をもとに行動できる										
A	B	C	D		A	B	C	D		
マタニティケア能力										
1. 指示・手順・ガイドに従い、安全確実に助産ケアができる										
A	B	C	D		A	B	C	D		
専門的自律能力										
教育	1. 看護行為の振り返りができ、課題をみつめることができる									
	A	B	C	D		A	B	C	D	
	2. 支援を受けながら、ローリスクを対象とした保健指導が実施できる(個別・小集団)									
研究	3. 国立成育医療研究センターが担う政策医療を知るために院内研修に参加する									
	A	B	C	D		A	B	C	D	
コミュニケーション	1. 看護実践における問題解決のため、文献検索の必要性が理解できる									
	A	B	C	D		A	B	C	D	
倫理	1. 助言を受けながら、患者・家族に必要な身体的・精神的・社会的・価値観や信条の側面から必要な情報収集ができる									
	A	B	C	D		A	B	C	D	
	2. 患者・家族の状況から緊急度をとらえることができる									
	A	B	C	D		A	B	C	D	
管理(マネジメント)	1. 助言を受けながら、患者・家族の思いを考慮することができる									
	A	B	C	D		A	B	C	D	
	2. 助産師としての自覚をもち、倫理に基づいて行動できる									
	A	B	C	D		A	B	C	D	
	1. 助言を受けながら安全管理が理解できる									
	A	B	C	D		A	B	C	D	
	2. コスト意識をもつ									
A	B	C	D		A	B	C	D		
	3. 助言を受けながら、患者を看護していくために必要な情報が何かを考え、その情報を関係者と共有することができる									
	A	B	C	D		A	B	C	D	
	4. 助言を受けながらチームの一員としての役割を理解できる									
	A	B	C	D		A	B	C	D	
	5. 助言を受けながらケアに必要と判断した情報を関係者から収集することができる									
A	B	C	D		A	B	C	D		
6. 患者を取り巻く関係者の多様な価値観を理解できる										
A	B	C	D		A	B	C	D		
7. 報告・連絡・相談ができる										
A	B	C	D		A	B	C	D		
評価日：20 年 月 日		合計				合計				
※所属部署等で日常的に行われている看護実践について評価する										
【評価基準】										
A 判定 よくできる : 自ら取り組み実践できる										
B 判定 できる : 一通り出来る。少しの支援(10%程度)を受けなければならない										
C 判定 時々できる : 20%以上の支援を受けなければならない										
D 判定 努力を要する : 全面的な支援を必要とする										
【到達の指標】各項目の評価が全て B 判定以上 但し「研究」については「C」判定でも可										
A		/19	A		/19	B		/19		
B		/19	B		/19	C		/19		
C		/19	C		/19	D		/19		
D		/19	D		/19					